



## 大阪市生涯学習情報発信ウィーク

市内各施設や区役所、小学校で実施している生涯学習事業について紹介します。

### 1 生涯学習って何? ~まなぼう つなごう ひろげよう~

大阪市の生涯学習について、わかりやすくパネルで紹介します。市内で実施されているイベント・講座などのチラシももりだくさん!秋は、「まなび」の絶好のタイミング、あなたの「やりたい」こと、探しにきませんか?

**入場無料** 11月6日(木)~11月14日(金) 土日を除く  
9時~17時30分(ただし、最終日は13時まで)  
場所: 大阪市役所玄関ホール

### 市の花サクラ・花咲かプロジェクト

「生涯学習」へのメッセージで  
サクラの木を満開にしよう!!

#### テーマ あなたにとって「生涯学習」って何ですか?

生涯学習のイメージ、日頃の活動について、生涯学習をやっている、楽しかったこと、うれしかったこと、思い出に残るエピソード...etc etc...  
生涯学習にまつわる様々なメッセージを自由にお寄せください。

#### 参加方法

①総合・各市民学習センター等、大阪市内の生涯学習施設に設置されているサクラ型の用紙に50字程度を上限とするメッセージを記入し、参加BOXに投函してください。

②FAX・E-mailでも、メッセージを投稿することができます。

#### 展示について

応募いただいたメッセージは、「大阪市生涯学習情報発信ウィーク」期間中大阪市の花であるサクラの木をかたどったメッセージボードに展示します。期間中は、会場でも、メッセージを記入することができます。また、FAX・E-mail、大阪市H.Pでは、期間中もメッセージを受け付けています。

#### 問合せ・送付先 教育委員会事務局生涯学習担当 「花咲かプロジェクト」係

〒530-8201 大阪市北区中之島1-3-20  
TEL: 6208-9146 FAX: 6202-7054 E-mail: ua0012@city.osaka.lg.jp

※応募多数の場合、展示期間中、メッセージの入れ替えを随時行う場合があります。  
※イベントの趣旨に合致しないと主催者が判断したメッセージについては、展示を見合わせる場合があります。

### 2 2014大阪市生涯学習ルーム ふえすていばる

「24区で輪っしょい!!和っしょい!!」

大阪市では、地域における生涯学習の拠点として、市内の小学校の特別教室等を活用して、市民のみなさんの文化・学習活動や講座等の開設を通じた学習機会の提供を図る「生涯学習ルーム事業」を実施しており、今年で26年目を迎えています。

24区の特徴ある舞台発表やブース展示、体験コーナーの他、生涯学習ルームの先進的な取り組み紹介や、今後地域で活動する際に役立つ内容を紹介する「わんすてつぷ・フォーラム」など、2日間にわたって生涯学習ルーム事業について広く発信します!パワフル&ビューティフルなパフォーマンス等、地域で取り組まれている生涯学習ルームの世界をぜひ満喫してください!



#### ステージプログラム

- 24区ルーム 活動発表ステージ
- わんすてつぷ・フォーラム

#### 24区ふれあい広場

- 24区展示ブース
- 体験コーナー

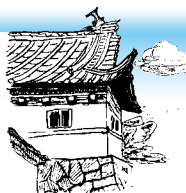
「24区ふれあい広場」(写真:左上、右上)と、発表ステージ(写真:左下、右下)  
※ともに昨年の「ルームふえすていばる」より

**日時** 11月15日(土) 11:00~16:30(10:30開場)  
16日(日) 10:30~16:00(10:00開場)

場所: 大阪市役所玄関ホール・市民ロビー  
(地下鉄・京阪「淀屋橋」、京阪「大江橋」)

費用: 無料(一部教材費が必要)

主催: 大阪市生涯学習推進員協議会・大阪市教育委員会  
問合せ: 6208-8259(生涯学習担当)



### おおさか歴史探訪 84

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

## 八州軒の跡 —此花区春日出にあった名建築—

奈良の春日大社といえば、だれもが知るところですが、此花区にも春日出という地名があるのをご存じでしょうか。江戸時代の中頃から、大阪湾岸の新田開発が豪商たちによって盛んに行われるようになりました。現在の此花区東部の開発は雑賀屋七兵衛により手掛けられていましたが、その作事の中に現れた鹿を人夫が捕えて殺してしまうという事件がおこります。春日大明神を崇敬していた七兵衛はこの鹿を手篤く弔い、元禄15(1702)年に完成した新田を春日出新田と名付け、それが今も地名に残ることとなりました。

この新田は享保7(1722)年に食野家の手に渡り、新田の管理棟兼別荘として広大な庭園を伴う屋敷が造営されました。狩野派の襖絵や変化に富んだ欄間装飾で飾られた書院や座敷、当時としては珍しい2階建ての亭を伴うなど御殿のような屋敷でした。そして明治維新後にこれを手に入れた清海家は、摂津・河内・和泉・山城・大和・紀伊・淡路・播磨の八州を見渡せることから、これを「八州軒」と名付けました。現在、現地には右写真の石碑と説明板しかありませんが、富岡製糸場の経営者でもあった実業家・原富太郎によって、大正4(1915)年、横浜の三溪園に移築され、現在は重要文化財「臨春閣」としてその優美な姿を伝えています。

臨春閣には「住之江の間」・「浪華の間」のように八州軒時代からの部屋の名も残っています。これからの行楽シーズンに、かつて大阪にあった名建築を訪ねてみてはいかがでしょうか。  
(大阪市教育委員会 文化財保護担当)



八州軒の跡地を示す石碑と説明板

